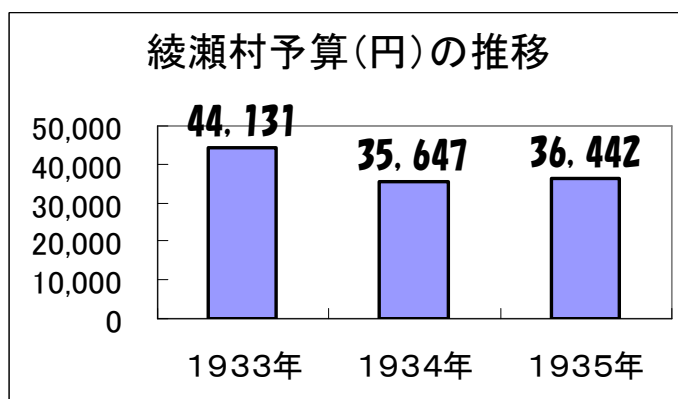


親
関
：
・
・
天
皇
の
検
閲
を
受
け
る
こ
と



『綾瀬市教育史』年表編・資料編 1

小学校教員の御親閲

孤立する日本

一九三二(昭和六)年、満州事変が起きました。国際社会の非難は年々強まり、一九三三(昭和八)年二月、国際連盟は、日本政府の行為を非難する決議を四二対一という圧倒的多数の賛成で可決しました。三月、日本政府は国際連盟を脱退しました。日本の動きに対して、アメリカ合衆国やイギリスなどの国々は、日本からの貿易品に高率の関税をかけ、日本製品を市場から閉め出そうとしました。そのため、日本の生糸輸出は大きな打撃を受けました。

生糸のもとになる繭の生産が中心だった綾瀬村の景気は一向によくありませんでした。

一九三三年度、綾瀬村では、税金を払えない人がたくさん出ました。

一九三四(昭和九)年一月、綾瀬村の峯尾文太郎村長は、大きな壁に立ち向かっていました。新年度から校舎建設費の返済が始まるのに、返済のめどが立たないからです。

村予算の編成もできず、助役や村会議員と相談しました。校舎建設費の返済については、国や県と交渉して何とか一年のぼしてもらえるようにしました。村予算は、石井伴七校長とも相談して、教育費を減らさないで編成することにしました。

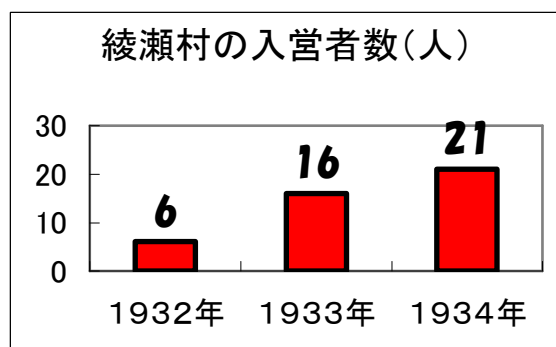
三月になって、文部省視学官の視察準備に忙しい石井伴七校長のもとに、驚くべき通達が届きました。年度初めの最も忙しい四月三日に、全国の小学校教員が東京に集まり、しかも親閲を受けるというものでした。

石井伴七校長



綾瀬市教育研究所所蔵

作興・・・興すこと
振作・・・盛んにすること
隆昌・・・盛んにする
淵源・・・みなもと
夙夜・・・朝早くから夜遅くまで
尽瘁・・・非常に苦勞して努力する



『綾瀬村事務報告書』

御親閲

一九三四（昭和九）年四月二日、綾瀬小学校の石井伴七校長は、始業式と入学式をすませると、慌ただしく職員との打合せに入りました。

綾瀬小学校では、翌三日に、校長をはじめとする八人の教員が皇居の二重橋前広場で行われる全国小学校教員精神作興大会に出席する予定だったからです。

全国小学校教員精神作興大会は、文部省が中心になって計画したものです。大会は、天皇の臨席する御親閲と教員精神作興大会の二部で構成されていました。教員は全国からやってきました。外地といわれた朝鮮・台湾・樺太・関東州及び満鉄付属地などからも集まってきました。四月三日の午後、皇居の二重橋前広場に整列し最敬礼をした三五、三二二名の教員を前に、天皇は次のように述べました。

「国民道徳を振作し、以て国運の隆昌を致すは、其の淵源する所実に小学教育に在り。事に其の局に当たるもの、夙夜奮勵努力せよ」（小学校教育こそが国民道徳を向上させ、国を発展させる。その任に当たるものは、日夜努力せよ）

第二部の教員精神作興大会で、斎藤文部大臣は、天皇の言葉を繰り返して、大会は、「身命を献げて君国のために尽瘁し、以て皇運の万一に報い奉らんことを誓う」という決議をして、午後三時半に解散しました。

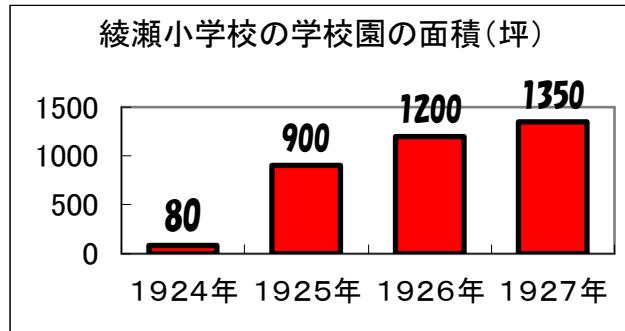
天皇の言葉に「国民道徳」という言葉が使われる意味を参加していた人々は良くわかっていました。満州事変が始まって、入営していく若者も増えました。ひどい不景気に、冷害や台風が国民の生活に追い打ちをかけ、政府に不満を持つ人が増えました。厳しい現実を目を向けさせ、前向きに解決していく力をつけるために石井伴七校長が選んだのが、郷土教育でした。

郷土教育

郷土の現実を理解させる教育

郷土教育の三つの立場

- ① 郷土調査・郷土研究に重点を置く立場
- ② 郷土愛を高めようとする立場
- ③ 郷土体験の発展拡充を図ろうとする立場



「小学校一覧綴」

小学生に詩や俳句を

一九三〇（昭和五）年、文部省は、全国の師範学校に対して郷土教育研究施設費を補助して、郷土教育を強力に推進しました。

同年、神奈川県高座教育会の中部会は、六月から十一月にかけて、海老名小学校を会場として、綴り方研究会や講演会を四回も開き、多くの教員を集めました。

一九三二（昭和七）年六月、神奈川県は、横浜にある神奈川県女子師範学校を会場として郷土教育研究会を開催し、郷土教育をより一層進めようとなりました。

この頃から、石井伴七校長は、農業科や国語科の中で郷土教育を進めました。農業科での指導は、広大な学校園や実習地を利用して行われました。農業科は、尋常科の高学年と高等科に科せられる科目でした。

石井伴七校長は、尋常科の低学年にも農業に親しませようと、全校での花壇作りに取りくませました。学校園は一、三五〇坪もありました。児童や教職員は、放課後になると、競争で花壇作りにはげみました。一六、〇〇〇坪もある実習地には水田もありました。石井伴七校長は、青年団や農会と相談しながら、新しい米の品種を試し、野菜や果樹の栽培など、将来の綾瀬に必要な農業技術を学ばせるようにしました。また、農業科の教員には、積極的に試験場や先進地を視察させました。

国語科では、綴り方に力を入れました。石井伴七校長は、全ての教員が気軽に綴り方の指導に取り組めるように、教員と研究をしました。日常生活で見たこと感じたことを素直な文章につづれるような方法を考えました。また、詩や俳句・短歌なども取り入れて、楽しい授業になるよう工夫しました。

山崎央が横浜貿易新報に連載した内容

詩・創作の指導体系とその原理（上）
詩・創作の指導体系とその原理（中）
こどもの詩 表現心理過程（1）
こどもの詩 表現心理過程（2）
こどもの詩 表現心理過程（3）
こどもの詩 表現心理過程（4）
こどもの詩 表現心理過程（5）

「小鳩」第三集の作文（昭和九年）

キノフノコト

キノフアメヤガキマシタ。ソレデ
ワタシハアメヲカイマシタ。
ソレカラオテンノウサマヲミニイ
キマシタ。ソレデミテイルト、
オテンノウサマハ、コウヤノクネヲ
ブツコハシマシタ。

尋常科一年 キツカワキヨ

詩の指導方法の研究では、山崎央が中心になりました。山崎央は、研究の成果を横浜貿易新報に発表しました。綾瀬小学校では、低学年の児童も詩を書くようになり、成果を上げることができました。

俳句指導の中心になったのは池田武治でした。池田武治は、すでに知られた俳人でもあり、村内の人々と句集をだしていました。綾瀬小学校では、たくさんの児童が俳句をつくるようになり、横浜貿易新報の児童俳句で度々入選するようになりました。

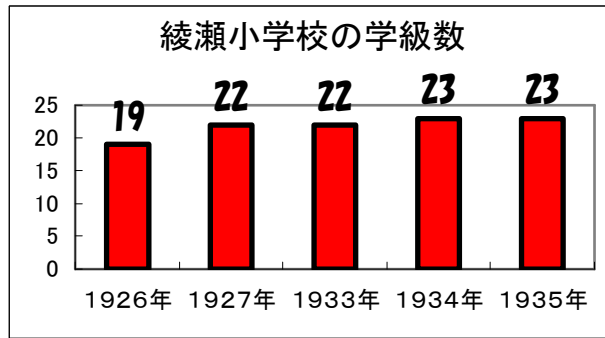
文集「小鳩」

一九三二（昭和七）年、石井伴七校長は、綴り方の成果を文集にして発表しようとした。不景気で印刷して発行する予算がないので、教員が謄写版で印刷することにしました。紙代も限られていましたので、学級に数冊ずつ置くことにしました。文集は「小鳩」と名付けられ発行されました。

一九三四（昭和九）年八月、「小鳩」の第三集が発行されました。「小鳩」は、尋常科の四年までの作品を載せた「低」と高等科までの「高」の二冊で一集でした。

「小鳩」第三集には、綴り方のほか、詩・短歌・俳句が載せられていました。題材は、日常生活にもとづいたものが多く、児童が見たことや感じたことが素直に表現されていました。綾瀬小学校の教員たちは、児童が進んで書けるように様々な工夫をしました。「小鳩」第三集には、そうした工夫の一端が分かるような記述があります。題材をふくらませる方法をヒントとして書いたり、同じ題材の綴り方をならべて比較させたりしました。

文集「小鳩」は、その後も発行され、一九四〇（昭和一五）年頃まで続き、綾瀬小学校の綴り方を発展させました。



『綾瀬市教育史』年表編・資料編 1

綾瀬小学校の増築

講堂で授業

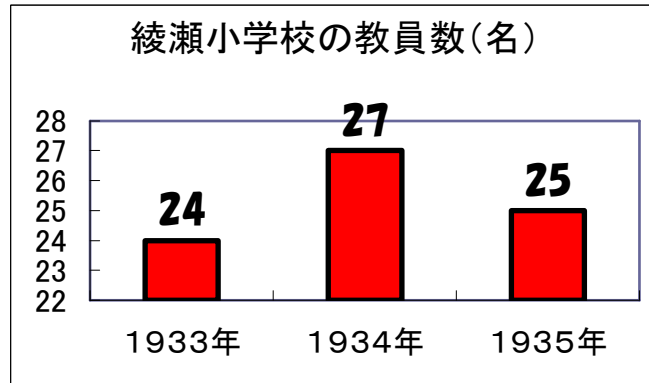
一九三五（昭和一〇）年三月三日、綾瀬小学校では盛大な学芸会が開かれていました。実業補習学校の生徒や村長と村会議員までつめかけ、講堂は、すしづめになっていました。石井伴七校長は職員と共に、次々とやってくる人々を案内していました。例年になくたくさんの人々を案内しながら、校長は講堂の奥に置かれたピアノに目を向けました。このピアノは、村出身の比留川松太郎によって寄付されたものです。綾瀬小学校にとって初めてのピアノでした。

学芸会が始まり、児童や生徒による劇や合唱が次々と披露され、その度ごとに喝采や笑いが起きました。会の終了間際、ピアノ演奏が披露されました。講堂中に響くその音に、児童だけでなく、ほとんどの大人もびつくりしました。

盛大な学芸会が終わり、参観者がほぼ帰ってから、講堂に、三学級分の机とイスが運び込まれて来ました。何年も前から、綾瀬小学校では教室が足らず、講堂で授業を行っていました。

講堂は、一般の教室と違って天井が高いので、冬は寒く、児童は凍えそうな手で授業を受けていました。その上、学芸会や卒業式など重要な行事がある度、机やイスを片付けなくてはなりませんでした。

増築してほしいという意見は、二年以上も前の村議会で議論され、多くの賛同者をえていましたが、予算の目途が立たず実現しませんでした。



『綾瀬村事務報告書』

不景気が続く中で

一九三五（昭和一〇）年になっても、綾瀬村の景気は一向に回復しませんでした。小学校の教員の数を二名へらし、ようやく前年並みの予算を組むことができました。

鈴木寛村長は、議会や近隣の町村長とも相談しました。近隣の町村も教室不足で悩んでいました。国が低利の融資を考えているという話を聞き、村長は、議会と相談して、それを活用しようと考えました。三月二十八日、綾瀬村議会は、綾瀬小学校の増築のために、二万四〇〇〇円の起債を決議しました。

卒業式を終了してほっとしていた石井伴七校長のもとに、起債決議の知らせが届きました。校長は、これでやっと増築の話が動きだしたと思いました。すぐにでも役場にとんでき、増築内容について村長と相談したいとも思いましたが、校長には、急いで検討しなければならぬことがありました。新年度の学級編制や校内研究、新年度から設置される青年学校の構想、教員の補充など、たくさんすることをしなければなりませんでした。そこで、校長は、起債のことがもう少しはつきりするまで待とうと思いました。

鈴木寛村長は、県庁に行き、起債の件を担当部署と相談しました。県庁の担当者は、綾瀬村が前回の起債すら返済しないで、新たに莫大な額の起債をするのは認められないと言いました。この頃、多くの市町村が教室不足に悩んでいました。そのため県庁の担当者のもとには多くの起債の要請がきていました。しかもその多くがこれまでの起債を返していませんでした。村長は、ねばり強く県庁の担当者と交渉し、一二月になって、ようやく、県庁の内諾を得ることができました。

一二月一九日、綾瀬村議会は、綾瀬小学校の増築の為に、一万一〇〇〇円の起債をすることを改めて議決し、校舎の増築を決定しました。

教科書『よみ方3』の題材の比較

これまで	今回
イマワ ハヤオキ ヒヨコ うちの子ねこ お花 ゆびのな かんがえもの わらびとり 竹の子 きょうだい 五一じいさん	春が来た なわとび うさぎ とび しりとり ひよこ かんがえもの とけい うちの子ねこ 蛙 国びき
合計二六編	合計二四編

色刷りの教科書

一九三三（昭和八）年から、新しい国定教科書が発刊されました。「ハナ ハト マメ マス」から「サイタ サイタ サクラガ サイタ」と内容が大幅に変わっただけでなく、色刷りのさし絵を使うなど、親しみやすい教科書になりました。この教科書は、一九三五（昭和一〇）年から使われました。この教科書を手にした石井伴七校長は、内容だけでなく、教材の扱い方も微妙に変わっていることに気づきました

二学年が使用する『よみ方3』の教科書には、前回と同じ題名の教材が少し残っていますが、本文に、わずかな違いがありました。

「国びき」など古事記に由来する伝説が二年生から教材として取り入れられているのに驚きました。高学年の読み方の教材としてはすでに取り入れられていましたが、これほど低学年で取り扱われるのは初めてでした。

校長は、職員に教科書とその解説をよく研究するようにと指示し、できる限り校内研究に出席しました。また、多くの職員が研修に出られるようにしました。

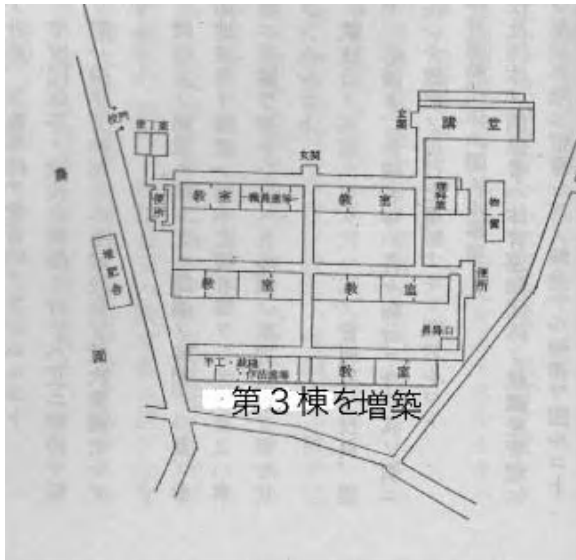
六月七日、田中・桂島・早川の三名が伊勢原小学校で行われた国語講習会に出席しました。三名は、九日までの三日間伊勢原小学校に通い、新しい教材の扱い方を学んで帰りました。六月一日と二日、校長は、全職員を二つに分け、神奈川県女子師範学校付属小学校の授業参観に行かせました。研修の成果は校内研究で生かされ、研究がすすみました。教科や授業の研究だけでなく、綾瀬の教育に役立つことであれば、積極的に出張させ、この年、図書館の研究や視察に四回も行かせました。

このころ校長が職員と共にまとめた「校規」の教授方針には、「児童が学習の中心であ

校規第二二号の冒頭の部分

- 一、児童ノ学習ヲ中心トシ各教科ノ本質ニ
応シタル教師ノ輔導ヲ重ンズ
- 二、題材ノ研究ヲ徹底的ニシ確固タル自信
ト信念トヲ以テ輔導ノ任ニ当タルコト
ニ努ム

増築したのは第三棟



るから、教師は題材の研究を徹底的にするように」と書いてありました。

石井伴七校長は、青年学校の研究を深めるために、鈴木徳治郎を茨城県公民学校の視察に行かせ、農業科の研究を充実させるために、青木保を茨城県の日本国民高等学校で開催された農業技術講習会に出席させました。また、女性教員の赤井フジを、東京の国立栄養研究所に出張させました。

石井伴七校長は、職員が出張から帰ってくると、学んできたことを皆に報告させるようにしました。それだけでなく、学んできたことをどのように綾瀬の児童の教育に生かすか考えるよう職員にすすめました。校長は、職員の徹底的な研究こそが職員の自信を生み、そのことが綾瀬の教育の発展に役立つと考えていました。

増築できた

一九三六（昭和一一）年二月一日、神奈川県は、綾瀬小学校の増築計画を承認しました。県の通知を受け取った鈴木寛村長は、綾瀬小学校にかけつけ、校長にそのことを話しました。校長と村長は、増築計画の細部について話し合い、村議会にかけけることにしました。

二月一九日、綾瀬村議会は、綾瀬小学校の増築計画を承認し、併せて増築工事を進めるための臨時委員を決定しました。

六月一二日、綾瀬小学校の増築工事（第三棟）の上棟式が行われました。工事は急ピッチで進められ、九月一五日には竣工しました。

一日も早い利用をという校長の意向もあって、竣工式を待たずして、すぐに校舎の利用が始まりました。

日中戦争が始まる

綾瀬小学校の学芸会

一九三六（昭和一一）年二月、綾瀬小学校では、三月に開催される学芸会の練習と準備に追われていました。講堂では、連日練習が行われ、講堂を仮教室としている児童は落ち着きませんでした。学芸会まであと一週間となった二月二六日早朝、東京で大変な事件が起きました。

陸軍の一部の青年将校と兵士一五〇〇名が、首相官邸・内大臣私邸・大蔵大臣私邸・侍従長官邸を襲い、斎藤実内大臣と高橋是清大蔵大臣・渡辺錠太郎教育総監を殺害し、鈴木貫太郎侍従長に重傷を負わせました。さらに、首相官邸・陸軍大臣官邸・陸軍省・警視庁を占拠し、永田町一帯を制圧しました。二・二六事件の始まりでした。

多くの人々が事件を知ったのは、翌二七日の朝刊でした。この日、石井伴七校長は、鎌倉第二小学校で開催される「日本精神研究会」に出席しました。

多くの人々は、東京で何が起こっているかわからないまま三月一日を迎え、朝刊で事件が終わったことを知りました。

三月三日、綾瀬小学校では、学芸会を予定通り開催しました。斉唱・独唱・三部合唱・唱歌劇・劇など多彩な内容で行われました。唱歌劇の中には、「楽しかった一年の思い出」や「綾瀬の小雀」といった児童や先生方の工夫が随所に見られる作品もありました。

学芸会には、本校だけでなく分校や青年学校の生徒まで参加しました。青年学校の生徒も、踊りや研究発表をしました。一日中、笑い声や拍手が絶えませんでした。

二・二六事件の第一報

二月二十六日午後八時十五分 陸軍省発表
本日午前五時頃一部青年将校等ハ左記箇所ヲ襲撃セリ

首相官邸 岡田首相即死

斎藤内大臣私邸 内大臣即死

渡辺教育総監私邸 教育総監即死

牧野前内大臣宿舎（湯河原伊東屋旅館）

牧野伯爵不明

鈴木侍従長官邸 侍従長重傷

高橋大蔵大臣私邸 大蔵大臣負傷

東京朝日新聞社

（岡田首相即死は誤報）

アジア歴史資料センターRef0505020209400
種村氏警察参考資料59集二・二六事件関係公示
事項（国立公文書館）

陸軍士官学校

陸軍の将校を養成するための学校。東京にあったものを座間村に移転。周辺に陸軍工廠や病院、さらに、海軍厚木基地がつくられるなど、軍都のさがけとなった

国体の本義



国立国会図書館所蔵資料

戦争への道

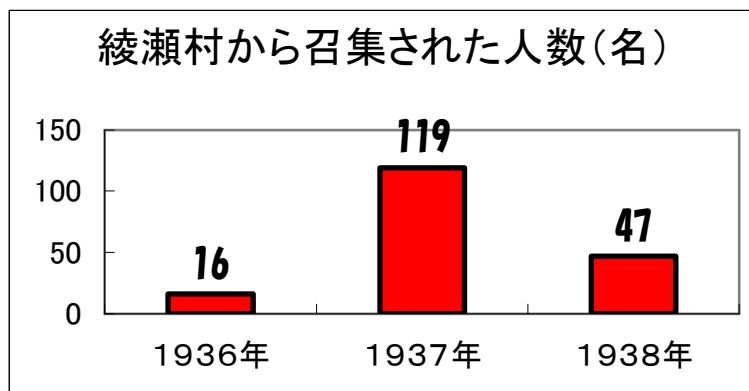
一九三六（昭和一一）年三月九日、広田弘毅内閣が成立しました。中国に駐留する兵士の数は一七七一名から五七七四名と一挙に三倍になり、中国との緊張が高まりました。五月一八日には、陸軍大臣と海軍大臣を現役の軍人が務める制度が復活し、政府の主導権を軍人がにぎるようになりました。さらに、八月七日、戦争の準備と軍備拡張のために、「国策の基準」を決定しました。政府が着々と戦争の準備を進める中で、綾瀬小学校の周辺の様相も大きく変わろうとしていました。

六月二七日、座間村役場に、座間、新磯、麻溝、大野の各村の村長が密かに集められました。座間村と新磯村にかけて陸軍士官学校がつくられ、その周辺に訓練の為の練兵場をつくるというものでした。広大な面積が対象となり、多くの関係者がいたため話がなかなか進まず、一部の村では小学校児童の休校騒ぎまで起きました。一〇月二六日に士官学校の起工式を済ませましたが、関係者と陸軍との話し合いに決着がついたのは、翌年の四月でした。

一九三七（昭和一二）年五月、政府は、『国体の本義』という本を発行し、日本は天皇中心の国家であるから、そのことを理解して天皇中心にまとまるようにと国民に呼びかけました。中等学校以上の生徒や小学校の教員に必ず読むように命じました。近郊の小学校では毎週のように先生方による学習会を開くようになりました。

更に、政府は、小学校の国史の教科書だけを、『国体の本義』に併せて改訂しました。

日中戦争が始まる



『綾瀬村事務報告書』

一九三七（昭和一二）年七月七日、中国の北京郊外の盧溝橋付近で日本軍と中国軍の戦闘がありました。近衛文麿内閣は、ただちに中国北部への大規模な派兵を決め、日中戦争が始まりました。軍事費は、わずか二ヶ月で二五億円も追加されました。この額は、この年の一般会計予算二八億七〇〇万円に近い数字でした。

当初、政府は戦闘が中国北部で終結するものと考えていましたが、九月になると中部にある上海に戦闘が広がり、更なる派兵を決め、神奈川県とも関係のある第一〇一師団（東京）を上海周辺に派兵しました。

戦争の広がりと共に、綾瀬村から兵士として出征する若者も増加しました。一九三七（昭和一二）年、綾瀬村から新兵として入営した若者は二九名にものぼりました。この他、補充の為に再度召集された若者も九〇名にもなりました。

八月二八日、石井伴七校長は、召集された綾瀬小学校教員山口栄を見送るために長後駅に行きました。山口栄は、同様に召集された若者と共に元気に挨拶して入営先の甲府に向かいました。この後、鈴木徳治郎も召集されて、綾瀬小学校では、二名の先生を兵士として送り出しました。綾瀬村では、二人に代わって女性の教員を臨時で雇いました。

動員される人々

一九三七（昭和一二）年八月一日、石井伴七校長は、赤井フジとともに平塚に向かいました。県主催防空に関する講習会に出席するためです。九月に大規模な防空演習が計画されているため、小学校関係者として行くべきことを確認しなければなりませんでした。

九月三〇日、校長は、座間村に移転してきた陸軍士官学校の入校式に列席しました。整列していた士官候補生は、東京で訓練されており、三ヶ月後には卒業の予定でした。

綾瀬村周辺の村葬

二月一日	六会村
二月五日	大和村
二月二日	御所見村
二月二日	座間村
二月三日	渋谷村
二月二五日	綾瀬村

昭和二年「支出命令簿」

卒業式には、天皇も臨席するとあつて、横浜線の町田駅から陸軍士官学校を結ぶ道路（行幸道路）の建設も急ピッチで進められていました。

日中戦争が拡大するにつれて、政府の発表も新聞の報道やニュース映画も日本軍のはなばなしい勝利ばかりを伝えていました。一月ごろになると綾瀬村や周辺の村々に戦死の連絡が次々と届くようになると、人々は日本軍が苦戦していることに気づくようになりました。それでも、二月になって、日本軍が中国の首都・南京に近づき、陥れようとしていることを知ると、人々の気持ちは沸き立つようになりました。

綾瀬村では、日本軍が中国の首都を陥落させたら、小学校の児童全員と青年団員など約二〇〇〇人を動員して、小学校で戦勝式をしようと計画しました。

戦死者の遺骨が帰ってくると、二月一日の六会村の村葬をかわきりに、周辺の村々で次々と村葬が行われました。その度に、石井伴七校長は、列席しました。どうしても列席できないときには、首席訓導の井上博を列席させるようにしました。

二月二〇日、石井伴七校長は、卒業式に臨席する天皇の出迎えのために、先生方や高等科児童を引率して陸軍士官学校に向かいました。士官学校の門前は、多くの学校の先生や児童でいっぱいになっていました。天皇が乗った自動車が来ると、そこに集まった人々は、最敬礼で出迎えました。

数日後、綾瀬村で南京陥落戦勝式が行われました。綾瀬小学校に多くの人が集まりました。式の後、地区ごとに分かれ、旗を持って行進しました。

二月二五日には、綾瀬村の村葬が行われました。綾瀬小学校の校庭に祭壇が組まれ、綾瀬小学校の児童や村民、周辺の村々の人々が参列して葬儀を行いました。葬儀の後、戦死者を出した地区の人々は、在郷軍人会の人々や遺族と共に、遺影や遺骨をもって地区に帰りました。

学校運営規則「校規」をまとめる

先生も戦場へ

このころ行われはじめた戦時への対応

- 一、戦勝祈願のため神社を参拝する
- 二、兵士へ慰問文を書く
- 三、兵士へ慰問袋を送る
- 四、児童へ貯金をすすめる
- 五、児童へ献金をすすめる
- 六、児童へ節約を勧める
- 七、出征兵士を見送る
- 八、朝礼や授業で戦況を伝える
- 九、戦死者の遺骨を出迎える
- 十、慰問金や献金のための廃品回収をする

大和市教育資料第四集『学校日誌抄稿』

一九三七（昭和一二）年、日中戦争が始まると、石井伴七校長は、これまでとちがう大変さを感じるようになりました。これまで、火災による校舎焼失、関東大震災による校舎倒壊、校舎の移転と再建、ひどい不景気への対応と、様々な事態へ対応してきました。どれも大変な事でしたが、対応への道筋はみえていました。しかし、戦時への対応は経験のないことで、どうしたらよいかわかりませんでした。

八月の中旬になって、毎日のように出征者の挨拶をうけ、教員の中からも出征者を出すようになって、改めて事態の大変さを感じるようになりました。

この頃、石井伴七校長は、綾瀬小学校の運営規則である「校規」と教育目標である「教育方針」の見直しをすすめていました。

ひどい不景気の中で、綾瀬小学校では、図書館を校地内に設置し、青年学校を併設していました。図書館は校内で利用されているだけでなく、青年団をはじめとして一般村民も利用していました。その管理や運営を先生方が行っていました。

国や県からは、青年学校のために、わずかな補助金しかでていませんでした。そこで、教科の授業は、小学校の先生方が夜間や休日に行っていました。校外で行われる査閲も、先生方がつきそっていました。大変忙しい先生方に、さらに、戦時への対応が求められました。校長は、「校規」や「教育方針」をわかりやすいものにして戦時に対応しようと考えようになりました。

学校運営見直し

校訓や校規の見直しから始まった。校規は、大正時代の初めごろから神奈川県下の小学校でもつくられたようで、教育制度の変革のつど変わったものと思われる。

学校運営の見直し

ひどい不景気の中で、学校運営の見直しが始まっていました。一九三四（昭和九）年六月二八日、厚木小学校で学校経営研究協議会が開催されました。予算不足を理由に教員削減や給料引き下げが求められるなかで、いかにして教員の志気を上げ、教育水準を維持するかが課題でした。

一九三五（昭和一〇）年六月三〇日には、寒川小学校に高座郡の小学校長が集まり、相互視察が始まりました。相互視察は毎年のように行われ、一九三七年度が最も多く、八回も行われ、綾瀬小学校も九月二七日に実施しました。

相互視察の日程

一九三七年	五月一日	藤沢小学校
	六月三〇日	寒川小学校
	七月一七日	麻溝小学校
	九月二七日	綾瀬小学校
	一〇月 五日	海老名小学校
	一二月 一日	藤沢第二小学校
一九三八年	一月二八日	御所見小学校
	二月二三日	大野小学校

自校の相互視察を終え、見直した校規を印刷させようとした石井伴七校長のもとに、一〇月になって、県より通達が届きました。その通達を読んで、石井伴七校長は、校規の印刷をしばらく延期しようと思いました。

国民精神総動員運動

戦争遂行のために国民の気持ちを一つにしようとした運動。
近衛文麿首相が運動の推進団体の会長となり、道府県知事が支部長で、市町村長が、その地域の責任者となった。

国家総動員法

戦争遂行のために、政府が人的・物的資源を動員できるようにした法律。一九三八年四月に公布

国民精神総動員運動

一九三七（昭和一二）年、近衛文麿内閣は、国民精神総動員運動の推進と国家総動員法の制定で国内体制をかため、日中戦争を進めようとなりました。八月二四日、国民精神総動員実施要綱を閣議決定すると、九月一〇日には、道府県に通达しました。神奈川県は、一〇月になって三回も通達をだし、一〇月一五日づけの学校長への通達では次のように指示しました。

- 一、国民精神総動員運動の趣旨を日常の教育活動の中で理解させよ。
- 二、朝礼の時、必ず皇居に向けて最敬礼させるなどして神を敬う気持ちを高めよ。
- 三、校規や校訓を必ず守らせ、規律正しく節度ある生活をさせよ。
- 四、体操・教練・武道の教育に力を入れ、行事などを通してがまんづよい児童にせよ。
- 五、神社や校庭などの清掃を通して奉仕の精神を高めさせよ。
- 六、生徒・児童による兵士への応援は、長続きするように計画的にさせよ。
- 七、生徒・児童が使う学用品などはできるだけ質素にさせ、貯金または献金させよ。
- 八、道府県の実行委員会が計画した内容は、必ず学校の教育計画に入れさせよ。
- 九、日本精神を各教科で指導できるように研究せよ。

石井伴七校長がこの指示を検討してみると、行事や日常指導の運用で対応できることと、「教育方針」や「校規」の見直しが必要なのがあることに気づきました。見直しが必要な部分については、他の小学校の動向も見極めようと考え、「校規」の印刷を延期しました。

「校規第二二号」の規程

職員服務規程、当直規程
児童取扱規程、養護規程
朝礼規程、校務分掌規程
学級事務規程、帳簿取扱規程
成績考查規程、操行査定規程
賞罰規程、入退学に関する規程
職員会規程、教科研究分担規程
儀式規程、身体検査規程
体育運動会規程、遠足規程
学芸会規程、使丁心得
章外であるが、学籍簿記入規程がある。この部分がこの時に追加されたものと思われる。

「校規第二二号」としてまとめる

一九三八（昭和一三）年一月二九日、小学校令施行規則が改正され、学籍簿の教科目の評価方法が、「優・良・可」の評価から一〇点法に変わりました。通知票は、すでに一〇点法にしていたので混乱はありませんでしたが、「校規」の規程を変える必要がありました。同日、神奈川県から、国民精神総動員と小学校教育に関する冊子が配布され、一九三七年一〇月一五日の通達より具体的な指示が書かれていました。これにも「校規」の規程に関わる部分があり、「校規」の改訂はすすみませんでした。

石井伴七校長は、先生方にも協力をもとめ、研究会や講習会に行くたびに、その学校の校訓や校規を調べてくるよう頼みました。六月には、全職員を神奈川県師範学校付属小学校と神奈川県女子師範学校付属小学校に行かせ、様々なことを学ばせました。

校長や先生方は、協力して資料を集め、「校規」を改訂していきました。できあがった「校規第二二号」は、校訓に相当する「教育方針」と学校運営規程に相当する「校規」より構成されていました。

「教育方針」には、大正時代から石井伴七校長が考えてきたことが反映されていました。教授方針にある「児童の学習を中心とし」とか「学習は児童の実生活に基調し」という言葉に、校長の思いがよく現れていました。

一方、その訓練方針に、「時代の趨勢に鑑み国体觀念並びに敬神崇祖の念を一層強くせんことを努め」という項目を追加して、戦時と国民精神総動員運動への対応としたものと思われる。

「校規」は第一章「職員服務規程」から始まり、第二〇章「使丁心得」で終わる大変長いものでした。その後に「学籍簿記入規程」も含まれ、五〇頁を超えるものでした。

戦時下の学校づくり

戦時下の教育改革

一九三八（昭和一三）年四月一日、国家総動員法が公布されました。これにより、戦争遂行のために、政府が、あらゆる人や物を自由に動員できるようになりました。

学校も例外ではありませんでした。一九三八年六月九日、文部省は「集团的勤労作業運動実施について」という通達をだし、中学校以上の生徒・学生に、夏季休暇などを利用して勤労奉仕をさせるようにしました。翌年には、食料増産計画に小学生も協力させるよう通達があり、綾瀬小学校では、『集团的勤労作業教育の実際』や『集团的勤労作業の本質及方策』という本を購入し、研究を始めました。

児童や教員による戦争への協力は様々な形で行われました。一九三九年だけでも、空地利用の勤労作業、軍馬用の乾草の生産、まゆの生産、児童の貯金、防空壕の築造などに児童に協力させるよう通達が小学校に届きました。

戦時下の小学校の変化は、児童や教員の動員にとどまるものではありませんでした。小学校そのものを戦時下にふさわしいものに変えようとする動きが起りました。

一九三八（昭和二三）年二月八日、政府が設置した教育審議会は、「国民学校、師範学校及び幼稚園に関する答申」を可決しました。この中の「国民学校に関する要綱」だけでも一八項目もありました。答申を受けた政府は、ただちに制度の整備にかかりました。どれも、これまでの勅令や法律を大幅に変えて実施するもので、予算措置をとまうものでした。そのため、国民がこの答申の一部を知るようになるのは、一九四〇（昭和一五）年

「国民学校に関する要綱」の一部

- 一、小学校に代わって国民学校を設ける
- 二、国民学校の修業年限は八年間とし、これを義務教育とする
- 三、国民学校の教育は、国民の基礎的錬成を目的とする
- 四、教科を統合し、国民生活にあつた教育をする
- 五、学校衛生職員に関する制度を整備する。
- 六、教員給料を国庫負担とする

戸田金一『昭和戦争期の国民学校』

綾瀬小学校の教員が出席した講習会

一九三八年

十二月 一日 神奈川県師範学校にて県主催
教員講習

一九三九年

三月 六日 中部教育会主催講習会
五月二〇日 海老名小学校にて教員講習
六月 九日 神奈川県師範学校付属
小学校の授業参観
六月一三日 神奈川県女子師範学校
付属小学校の授業参観
八月一八日 海老名小学校にて高座郡
教育会主催夏季講習

昭和一三・一四年「支出命令簿」

算術関係の講習会や研究会

五月 六日 横浜友松会館にて算術講習会
五月二八日 有馬小学校にて珠算研究発表
会

六月二二日 大和小学校にて尋常科二年
算術講習会

七月 一日 綾瀬小学校にて算術科研究会
七月 一日 有馬小学校にて中部会算術
研究会

一〇月一三日 有馬小学校にて算術研究会

昭和一四年「支出命令簿」

一月発行の政府の『週報』でした。

一九三九年から一九四〇年にかけて、政府は、様々な指示をだして、国民学校制度が混乱なく発足できるようにしました。そのため、綾瀬小学校の教育も大きく変化しました。

教員の指導力向上

教育審議会の答申にあるように「国民の基礎的錬成」や「教科を統合し、国民生活にあった教育」をすすめるためには、教員の指導力向上が求められ、優秀な教員の確保が課題でした。そのために、「教員給料の国庫負担」まで考えられました。ところが、多くの若者は兵士として出征したり、給料のよい軍需産業に就職したりして、教員の確保が難しくなっていました。

一九三八年から一九三九年にかけて、綾瀬小学校では、退職した教員に代わって七人の若者が教員になりました。石井伴七校長と村長が村内や知り合いを訪ねて、ようやく確保しました。校長は、これらの若者を様々な講習会や授業参観に行かせ、教員の指導力向上をはかりました。

日中戦争によって航空機と艦船の生産が活発になり、計算能力の向上と物理の基礎知識の習得が求められるようになりました。教員は、これらの点についての指導力向上と実験設備や教材の充実を求められました。

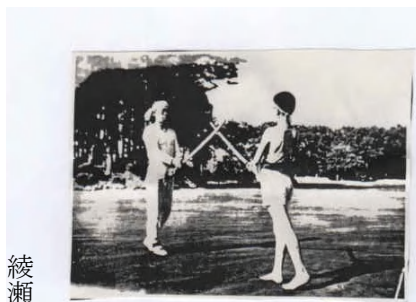
算術では、それまで筆算が中心だったものに、四年生以上で珠算が取り入れられるようになりました。一九三九（昭和一四）年五月六日、横浜で算術講習会が開催されると、高座教育会中部会でも、活発に研究するようになりました。有馬小学校を中心に、大和小学校や綾瀬小学校でも研究会を持ち、その授業を参観しあいました。

綾瀬小学校が購入した本

一、改正学校体育教授要目	一一冊
二、文部省新制学校体操 要目標準レコード	七枚
三、文部省新制学校体操 レコード	一枚
四、改正体操解説	二冊
五、建国体操図解	三〇枚

昭和十三年「支出命令簿」

剣道の授業の様子



綾瀬小学校所蔵資料

理科は、一九三八（昭和十三年）年に教科書の一部が修正され、物理についての内容が増加し、一九三九年度から実施されることになりました。綾瀬小学校では、六月に、「パスカルの原理」など物理に関する教具二〇点を買いました。一九三九年六月一六日、高座教育会中部会は、海老名小学校で理科講習会を開催しました。六月二八日には御所見小学校、七月一四日に渋谷小学校で理科の研究会を開き、新しい教材の研究を進めました。

体操と武道

戦時下の小学校では、将来立派な兵士となるような気力と体力をもつ児童を育てることが期待されました。そのため、文部省は体操を重視し、やがて武道を小学校の授業に取り入れるようになりました。

一九三八（昭和十三年）年一月一日と一七日、渋谷小学校で体操研究会が開催されました。石井伴七校長は、二日間の研究会に七名の教員を派遣しました。この時、児童も引率していききましたから、単なる研究会でなく、講習会もしくは各校の研究発表会だったと思われる。この年、綾瀬小学校では体操の研究を熱心に進めていたことが、多数の体操関係の備品を購入していることからわかります。

一九三九（昭和十四）年五月二九日、文部省は、小学校五・六年と高等科の児童に武道を課すことを通達しました。

七月五日には、平塚第一小学校で県主催武道講習会が開催され、綾瀬小学校から三名の教員が派遣されました。この講習会の直前、三本の木刀を購入して講習会に参加しました。さらに、七月三十一日に海老名小学校で武道講習会の打合せが行われ、八月八日と九日に、高座教育会中部会主催で武道講習会が開催されました。さらに、九月一四日と一五日には、

体力手帳



綾瀬市教育研究所所蔵資料

「青少年学徒二賜リタル勅語」

国本ニ培ヒ国力ヲ養イ以テ国家隆昌ノ氣運ヲ永世ニ維持セムトスル任タル極メテ重ク道タル甚ダ遠シ 而シテ其ノ任実ニ繁リテ汝等青少年学徒ノ双肩ニ在リ 汝等其レ氣節尚ビ廉恥ヲ重シ古今ノ史実ニ稽ヘ中外ノ事勢ニ鑒ミ其ノ思索ヲ精ニシ其ノ識見ヲ長シ執ル所中ヲ失ハズ嚮フ所正ヲ謬ラズ各其ノ本分ヲ恪守シ文ヲ修メ武ヲ練リ質実剛健ノ氣風ヲ振勵シ以テ負荷ノ大任ヲ全クセムコトヲ期セヨ

昭和十四年五月二十二日

『学生百年史』資料編「一 詔書・勅語 青少年学徒二賜ハリタル勅語」 文部科学省

綾瀬小学校を使って柔道の講習も行われていました。

剣道や柔道の授業は、一〇月頃に始まったものと思えます。また、その内容も、木刀を使った素振りや人形を使った打ち込みなどが主だったと思われる。

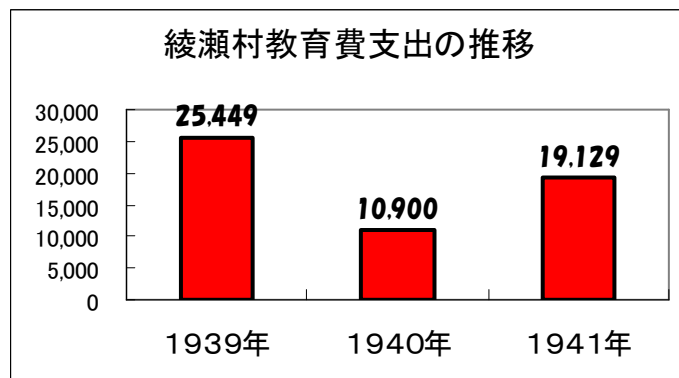
一九三九（昭和一四）年一〇月、政府は若者の体力を把握するために、体力章検定制度的をつくり、設立されたばかりの厚生省体力局に担当させました。小学校では、体力手帳が配布され、その都度記録しました。

「青少年学徒二賜リタル勅語」

一九三九（昭和一四）年になると、中国との戦争で華々しい戦果が上げられなくなり、むしろノモンハン事件のように多数の戦死者をだしながら、国民に秘密にされていたこともあり、政府は、きびしい報道規制を敷き、政府に苦言を述べる国会議員を追放し、ラジオや宣伝映画などあらゆる方法を使って、国民を戦争に協力させるようにしました。一九三九年五月二二日、昭和天皇は、全国の児童・生徒・学生にむけて、「青少年学徒二賜リタル勅語」を出しました。

天皇は、「天皇中心の国家の隆昌を永く維持する責務」は児童・生徒・学生にあるから、よく勉強し武道で身体をきたえ、その責務を全うするように述べました。

五月二四日、石井伴七校長は神奈川県庁に向き、「青少年学徒二賜リタル勅語」奉読式に参列しました。これを受けて、五月二六日、綾瀬小学校でも「青少年学徒二賜リタル勅語」奉読式が実施され、全児童に知らされました。この勅語は、教育勅語と並んで最も大切なものとされ、儀式の度に奉読されるようになりました。また、翌年からは通知票にも必ず掲載されるようになりました。



昭和14・15・16年の「歳出簿」

国民学校を準備する

改革の始まり

一九四〇（昭和一五）年一月、政府は『週報』で、国民学校の概要を発表しました。一月二六日の藤沢小学校での小学校長会や二月八日の上溝小学校における校長相互視察会の席上でも、国民学校のこと話題にのぼりました。石井伴七校長は、この後何回も県庁に、出向いて、国民学校についての情報を集めようと思いました。

三月二九日には、義務教育国庫負担法が公布されました。小学校の教員給料の半額を国が負担し、残りを県が負担することが決まりました。

四月より早速実施されることになり、市町村の教育費負担は大幅に軽減されました。綾瀬村では、一九四〇年度の教育費支出は、前年に比べ、四二%の金額になりました。

綾瀬村の教育費の中には、小学校費と青年学校費と図書館費がふくまれていました。その内、小学校費について、一九三九年と一九四〇年を比べると、さらに大幅に減少しました。一九三九年度の小学校費は二二、三〇九円だったのに対し、一九四〇年度は六、八三二円になり、前年比三一%になりました。

改革の一つが早くも実現したわけですから、国民学校構想もすぐに実施されるものと思われるようにまりました。四月になって、一九四一（昭和一六）年度からの実施が決定されました。しかし、『週報』以上の情報は、なかなか集まりませんでした。文部省がまだ細案を完成していなかったからです。

東京高等師範学校

現在の筑波大学

東京女子高等師範学校

現在のお茶の水女子大学

玉川学園

現在の玉川大学

国民学校の情報を集める

このころ、国民学校について先行研究を行っていたのは、東京高等師範学校や東京女子高等師範学校と玉川学園でした。多くの人々がこれらの学校へ情報を求めて集まりました。四月二七日、石井伴七校長は、東京高等師範学校付属小学校に向かいました。例年、五月下旬から六月にかけて東京高等師範学校付属小学校の授業参観に行っていました。年度初めのこの時期に行くのは初めてでした。石井伴七校長は、それだけ、早く国民学校について知りたかったのです。

五月になって、文部省は、全国の師範学校の教員を対象にして国民学校に関する講習会を開催しました。講習会に集まった教員たちは、自らの師範学校の同僚に伝達して、国民学校についての研究を始めました。

六月一日から三日までの三日間、石井伴七校長は、国民学校に関する講習会に出席させるため、井上博など四名の教員を玉川学園に派遣しました。六月二日には、石井伴七校長も講習会に参加し、授業を見ていきました。

さらに、六月一二日から一五日までの四日間、橘川重晴や池田重雄は、東京女子高等師範学校で開催される国民学校に関する講習会に参加しました。

こうした努力にもかかわらず、石井伴七校長の下に集まる国民学校についての情報は、『週報』以上の内容になりませんでした。

五月の文部省主催の講習会の内容が整理され、各県の師範学校の研究が深まって、本やパンフレットが刊行されるようになりました。各県では、小学校長を対象とした講習会が開催されるようになりました。六月二五日、横浜で神奈川県小学校長会が開催され、その席で、県の担当者から国民学校の具体的な内容が発表されました。

講習会に参加する

『文部省国民学校講習プリント』

五月の講習会で文部省が配付した資料や講習会で文部省が説明した内容を筆記したものをまとめた本。八月に発行された。

錬成

薬などをねりあげる意味から、転じて人や技術をきたえあげる意味で使用。

七月三十一日、石井伴七校長は、『国民学校案』、『皇国の道と教育』、『週報』などをもって、神奈川県女子師範学校に向かいました。一八日間にわたって開催される国民学校に関する講習会に参加するためです。

この講習会で、五月に開催された文部省主催の講習会の内容をまとめた本なども紹介されました。石井伴七校長が、これまで進めてきた教育の目的や内容・進め方と異なることが多く、戸惑うこともありました。

教育の目的だけでも、これまでの小学校令では、「道德教育及国民教育ノ基礎」を授けるとしているのに対し、国民学校令案では、「皇国民タルノ基礎錬成ヲナス」としていました。石井伴七校長には、これまでの小学校と全く違うものに思われました。

小学校令第一条

小学校ハ児童身体ノ発達ニ留意シテ道德教育及国民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

国民学校令一章案

皇国ノ道ニ則リ国民ニ必須ナル普通教育ヲ施シ皇国民タルノ基礎錬成^{れんせい}ヲ為スヲ以テ本旨トス

錬成という用語の使用も異様でした。本来、錬成とすべきところを錬成としているところに、石井伴七校長は、国民学校案を作成した人々の強い意志を感じ取りました。

首席訓導

小学校では教員を訓導と呼んでいた。訓導の筆頭者を首席訓導と言った。一九四一年の秋、首席訓導に代わって教頭が置かれることになった。

石井伴七校長は、綾瀬小学校に戻り、職員会議や校内研究会がある度に、学んできたことを伝えました。教員たちも戸惑うことが多く、校長も困ってしまいました。

二期になると、県内のいくつかの小学校で先行研究が始まりました。一〇月三日、石井伴七校長は、比留川友枝、加藤静子、綱島マサエの三名の教員と共に、茅ヶ崎第一小学校に向かいました。茅ヶ崎第一小学校では、教科書や教則案がない中で、師範学校と相談しながら国民学校低学年での研究を続けていました。

教科書もなく、現在の指導要領に相当する教則案もない中での研究ですから、手探りの授業でした。綾瀬小学校からきた先生方は、大いに刺激をうけ、どのような授業を考えたらいいかを、少し理解できるようになりました。

一月一八日から、首席訓導の井上博が国民学校講習に向かいました。校長の時と同じように一八日間の講習でした。二期期の後半の大事な時期に、学級を担当する教員を一八日間も派遣することは大変なことでした。校長だけでなく、多くの教員が井上博に代わって授業をしました。

このころになると、国民学校に関する本の出版予告が新聞に出るようになり、神奈川県は、一般教員を対象とした国民学校講習会を計画するようになりました。

三期期には、次の年度の学校経営案を作成して県に提出しなければなりません。綾瀬小学校では、各教科の指導内容を検討する教科部会とどのような児童を育てるかを検討する部会を交互に開いて、国民学校の研究を進めました。

国民学校の経営案をつくる

石井伴七校長は、多くの教員を授業参観や講習会に行かせ、その人たちと話し合ったり、

学務委員

小学校や青年学校の維持・運営をはかるために設けられている委員。

時には関係する本を参考書にして研究会を開いて、国民学校の経営案をつくりました。

一九四一（昭和一六）年一月一六日と一七日の両日、石井伴七校長は、井上博、田戸マサヤ、比留川友枝、比留川笑子の四人の教員と共に、神奈川県女子師範学校付属小学校の授業を参観し、国民学校の授業をどのようにすすめたらよいか研究しました。

一月二四日と二五日には、神奈川県師範学校付属小学校で、県主催国民学校講習会が開催されました。石井伴七校長は、田中達爾、橘川重晴、早川明能、松樹俊泰の四名の教員を派遣しました。

校長は、授業参観や講習会に参加した教員に、職員朝会や職員会議でその内容を報告させ、みなに伝えさせました。

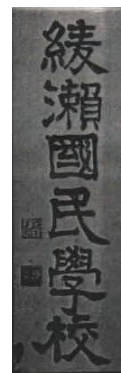
このころ漸く『国民学校の経営と教法』と『国民学校「場」的経営』といった本が購入でき、国民学校の経営案の作成作業は、少しずつ進むようになりました。経営案の作成作業に比べ、各教科の指導案づくりは一向に進みませんでした。二月下旬になってようやく教則案を一五冊手に入れることができ、指導案の作成を始めることができました。

二月二七日、綾瀬小学校に全ての学務委員が集まり、学務委員会が開催されました。石井伴七校長は、小学校が国民学校になることや教科と教育方法がこれまでと大いに異なることなどを説明しました。

三月一日、「国民学校令」が公布され、日本中から、小学校と名が付く学校が消えることになりました。

綾瀬小学校では、教則案を手に入れることにより、経営案の作成もすすみ、三月中旬になつて県に提出することができました。

三月下旬、石井伴七校長は、綾瀬小学校長としての最後の卒業式を終えて、長い教員生活を終えました。



大矢喜三郎校長



綾瀬小学校所蔵資料

国民学校の教科の構成

- ① 国民科＝修身・国語・国史（五年以上）
地理（同上）
- ② 理科＝算数・理科（五年以上）
- ③ 体錬科＝体操・武道（五年以上、男子は柔道か剣道、女子は薙刀、ただし学校選択）
- ④ 芸能科＝音楽・図画・工作・裁縫（女子四年以上）
- ⑤ 実業科＝高等科のみ、農業・工業・商業・水産業

綾瀬村国民学校

小学校から国民学校へ

一九四一（昭和一六）年三月三十一日、大矢喜三郎が綾瀬尋常高等小学校の第四代校長に就任しました。四月一日、綾瀬尋常高等小学校は綾瀬村国民学校となり、大矢喜三郎は綾瀬村国民学校の初代校長となりました。

大矢喜三郎校長の最初の仕事は、石井伴七前校長が準備した国民学校を作り上げることでした。国民学校は、これまでの小学校に比べ、教育の目的、教科の構成、指導方法がちがっていました。

教科は、国民科、理数科、体錬科、芸能科、実業科の五つにまとめられましたが、それぞれの教科の教科書が発行されたわけではありませんでした。

例えば、国民科は、これまでの修身、国語、国史、地理がまとめられたものでした。国民学校令施行規則によれば、国民科の目的は、「わが国の道徳、言語、歴史、国土国勢等について習得させ、特に国体の精華を明らかにして、国民精神を涵養し、皇国の使命を自覚」させることとしていました。この目的を意識して、修身、国語、国史、地理の教科書を使つてどのように指導するかが課題でした。

教科書は、これまでの尋常科一・二年の教科書が、国民学校の初等科一・二年用に改訂されました。教科書の名称も親しみやすいように変わりました。教科書の改訂された部分を読んでいくと、教則案の再検討が必要になりました。大矢喜三郎校長は、農繁休業になったら集中的に研究しようとしたましたが、思わぬことで研究がすすみませんでした。

教科書名の変化

修 身→ヨイコドモ
 国語読本→ヨミカタ、
 コトバノオケイコ
 (二年生用はひらがな)
 算 術→カズノホン
 図 画→エノホン
 音 楽→ウタノホン
 習 字→テホン(二年生用はひらがな)

ヨミカタ一



綾瀬市教育研究所所蔵資料

厚木基地建設計画にゆれる中で

五月一日、綾瀬村国民学校の校庭には、初等科の一、二、三年の児童が、厚木方面に遠足に行くために集まっていました。大矢喜三郎校長の話の後、児童たちはうれしそうに出発して行きました。

同じ日、綾瀬村役場で驚くべきことが話されていました。学務委員の斎藤定八は、県庁よりもたらされた話として、海軍が綾瀬村の蓼川地区や本蓼川地区を買収して基地をつくるという話を聞きました。そこにいた人達は、重要な内容だと思いましたが、海軍の正式な発表があるまで様子を見ることにしました。

六月六日午前十時、大雨の中、海軍からの通知により綾瀬村国民学校の講堂に、綾瀬村、大和村、渋谷村の地主三二〇名が集められました。海軍からの土地買収について説明後、地主たちは、海軍の担当者より土地買収に応じるかどうか聞かれました。

そこで、地主たちは、三つの村より委員を選出して、海軍と折衝することにしました。しかしながら、永年住み慣れた土地、先祖が手に入れた土地は、海軍が提示した価格で買収されることになりました。

この海軍による土地買収の話は、綾瀬村中に広まりました。蓼川地区や本蓼川地区の大部分が土地買収の対象となり、この地区の多くの家庭が移転を余儀なくされることになりました。

この後、綾瀬村国民学校は、農繁休業に入りました。例年、この時期を利用して神奈川県師範学校や東京高等師範学校の研究授業を参観していましたが、この年は、各教科の研究を集中的にすることにし、たくさんの本を購入して研究を始めました。

六月一六日、大矢喜三郎校長は、湯河原国民学校で実施される文部省の総合視察に参加

このころ綾瀬村国民学校が購入した本

- 一、国民学校行事研究
- 二、国民学校教則案
- 三、国民学校（六月、七月、九月、一〇月、十一月、十二月、一月、二月、三月）
- 四、国民学校 八月特集
- 五、国民学校 三月特集
- 六、国民学校初等科第三学年以上の各教科取扱い
- 七、国民学校教科書編纂趣旨解説

昭和一六年「支出命令簿」

武道「薙刀」



栗原モト氏所蔵資料

しました。文部省の担当者や湯河原国民学校長の話を聞いて、校長は、もっと「体錬科」の研究をする必要があると考えようになりました。

「体錬科」の研究

国民学校令施行規則によれば、「体錬科」の教育目的は、次のように定められていました。

身体を鍛錬し、精神を錬磨して、闊達剛健な心身を育て、献身奉公の実践力を培うのを要旨とする。（中略）強靱なる体力と旺盛なる精神力とが、国力発展の根底にして、特に国防に必要な所以を自覚せしむべし。

「体錬科」は、単に身体を強健にするための体育でなく、献身奉公、つまり国や天皇のために身を献げることが目的としている体育でした。「体錬科」の週時間数は、小学校の体操科の時に比べ大幅に増加し、三年生以上は、毎日、体錬科の授業が行われることになりました。

体操科と体錬科の週時数のちがい

	一年	二年	三年	四年	五年	六年
体操科	四	四	三	三	三	三（一年、二年は唱歌を含む）
体錬科	五	六	六	六	六	六（二年は音楽を含む）

五年以上には、この時間内に武道が含まれていました。大矢喜三郎校長は、体錬科主任の池田武治と相談して、男子に剣道と相撲、女子に薙刀を課すことにしました。武道を指導



加藤貢氏所蔵「東京日日新聞」の記事

できる教員を増やすために、講習会があれば積極的に参加させることにしました。

七月五日と六日に神奈川県師範学校で行われた武道講習会には、比留川本吉と見上睦を派遣し、八月一八日から二日まで神奈川県女子師範学校で行われた薙刀講習会には、小山田エイ、綱島安子、田中サク、比留川笑子、田戸マサヤの五名を派遣して、指導方法を学ばせました。大矢喜三郎校長は、薙刀を六〇本も注文し、二学期から薙刀の授業をすることになりました。

二学期になって、剣道や薙刀の授業がはじまり、校庭に児童の元気な声が戻ってきました。一二月になって、人々は新たな戦争が始まったことを知らされました。

新たな戦争の始まり

一二月八日、綾瀬村の人々は、このころ家庭にも少しずつ普及しはじめたラジオの臨時ニュースによって、新たな戦争に入ったことを知りました。日本軍がハワイの真珠湾とマレー半島を攻撃した太平洋戦争の始まりでした。国民は緒戦の勝利に興奮し、町には景気のよい軍歌がたくさんあふれました。

綾瀬村国民学校でも、「大政翼賛の歌」、「出世一億の底力」、「南進日本」、「三国旗をかざして」、「国民進軍歌」などのレコードを買い、朝礼や授業の時、児童に聞かせていました。

大矢喜三郎校長は、単に音楽を聞かせるだけでは指導にならないと考えようになりました。何回も体操の講習会に出席していた池田武治と相談して、音楽を聴かせながら行進の訓練をしようと考えました。

運動場で音楽を聴かせるためには巨大な拡声器が必要でした。大矢喜三郎校長は、村長に頼み込んで設置してもらうことにしました。拡声器は、一九四二（昭和一七）年三月末

までに設置を完了することでした。

その間、池田武治は、行進の訓練方法を研究しました。その結果、近隣の国民学校で始められていた「正常歩」を取り入れることにしました。「正常歩」というのは、正しい歩き方という意味ですが、このころは、国民が一致団結して戦争に立ち向かう姿になぞらえていました。大谷武一の『正常歩』（目黒書店・一九四一年）には、一七項目にも及ぶ正常歩の要点が書かれていました。

一、上体は真っ直ぐであること。決して前傾したり、また殊更に反りもしない。

二、頭は真っ直ぐ保ち、視線も概ね進む方向に真っ直ぐになるようにする。極端に視線を下げ、或いは脇見等をしてはならない。

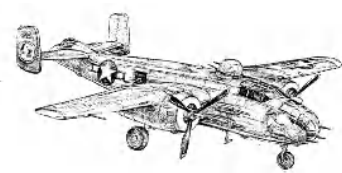
三、肩から肘の部分は十分脱力され、肩関節に於いて大きく、肘関節に於いて小さく振れる。

（中略）

一七、歩長は狭きに失せず、歩数は少なきに偏せず、常に適正なる歩長と歩数とを以て颯々と歩くべきこと。

歩き方には個人差やくせがあります。そうしたものをゆるさず、同じように歩く方法を長々と説明した本でした。この本を読んでもわからないことがあったので、池田武治は、大矢喜三郎校長の了解を得て、「正常歩」のレコードを買って研究を始めました。

やがて、正常歩は体錬科や朝礼の時だけでなく、児童の集団登校や奉仕作業にも取り入れられるようになりました。



空襲の記録

関戸弘文氏作画

遠足の記録

大和市教育資料第四集『学校日誌抄稿』

四月三〇日	四年	江の島
〃	六年	鎌倉
五月 一日	一・二・三年	御所見村
〃	五年	大山
五月 三日	高等科一・二年	稲置城跡

昭和一七年「支出命令簿」

空襲が始まったころの教育

本土への初空襲

一九四二（昭和一七）年四月、綾瀬村国民学校は二年目を迎えました。年度始めの忙しい時期が過ぎ、ようやく落ち着いて授業が行われていました。遠足が児童や教員の間で話題になり始めた頃、突然、事件が起きました。

四月一八日（土曜日）正午過ぎ、太平洋上のアメリカ海軍空母ホーネットに搭載された一六機の B 25 が低空で侵入して、東京・横浜・川崎・京阪地区を空襲しました。死者約五〇名、負傷者四百数十名、全焼全壊百数十戸の被害が出ました。この日、綾瀬村に空襲警報は出しましたが、幸い空襲はありませんでした。政府は夕刊に、「九機撃墜、我方損害軽微」と報道させ、国民に事実を知らせませんでした。

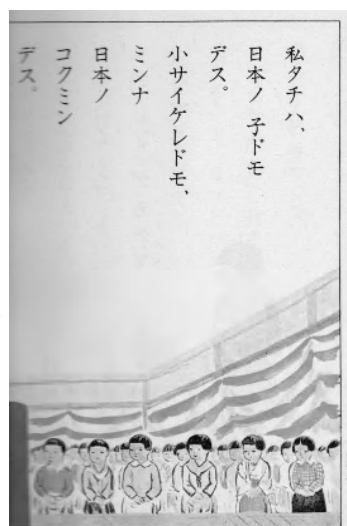
翌二〇日も空襲警報が発令され、二一日には警戒警報になりました。この間、綾瀬村国民学校では、宿直の先生を二名に増やして空襲に備えました。

遠足も、昨年よりは、短い日数で行うようにしました。大矢喜三郎校長は、一・二・三年の遠足を自ら引率することにし、高等科の見学先を空襲にあいそうな横浜から稲置城跡に変えさせました。

この年、空襲は、この一回だけでした。児童は、学校に防空ズキンを持ってくるようになりました。また、これまでも行われていた防空訓練が強化され、国民学校で、しばしば避難訓練が行われるようになりました。児童による対外試合も制限されるようになり、神奈川県は、空襲警報がでたら、ただちに試合を中止するように指示しました。

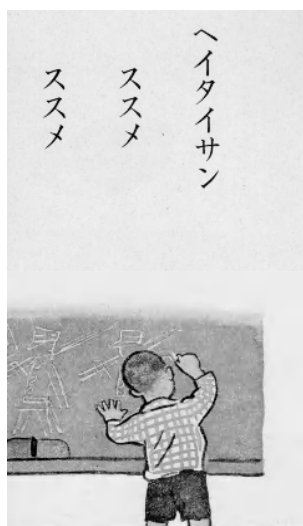
国民学校の教科書

修身



綾瀬市教育研究所所蔵資料

ヨミカタ



綾瀬市教育研究所所蔵資料

少国民と呼ばれて

このころ国民学校の児童は、少国民と呼ばれていました。一年生の修身の教科書である『ヨイコドモ上』の「ショウコクミン」では、「私たちハ、日本ノコドモデス。小サイケレドモ、ミンナ 日本ノコクミンデス。」と述べ、将来、国民としての義務を果たせるようにと言っているわけです。この頃、児童は、将来兵士となつて国を支えるか、その兵士を産み育てる母になることを期待されていました。

そのため、国民学校の教育では、早くから兵士に親しむとともに、軍隊や武器になれるような工夫がされていました。

国語の教科書『ヨミカタ一』では、「ヘイタイサン ススメ ススメ チテチテタ トタテテ タテタ」として兵士に親しませ、『ヨミカタ二』の「兵タイゴッコ」では、主人公の勇と花子に「ボクハ兵ダヨ、私たちハ カンゴフニ ナリマショウ」と言わせ、児童が自然に兵士や看護婦になりたいような気持ちにさせる工夫がしてありました。

また、音楽では兵士をたたえる歌を歌わせたり、習字の授業では戦勝祈願の文章を書かせたりしました。さらに理科では、食料増産や戦争遂行に直接結びつくような知識を学ばせました。体錬科では武道に加えて「手榴弾投げ」や「土嚢運搬競走」などの国防競技を取り入れられ、綾瀬村国民学校でも、国防競技飛越台などの用具を購入しました。

国民学校の教科の内容は、当時の文部省が週報で述べたように戦争遂行に協力させるために複雑に組みあわされていました。その上、一単位時間が五分短くなったり、午前中に学術科目を終わらせたりするなど教育課程の編成にも制約がありました。

そのため教材のねらいの再検討と教科の連携が必要となり、これまで以上に研究に時間

研究会と講習会の記録

六月二九日	神奈川県師範学校にて 国民学校研究会
七月二日	横浜市龍頭国民学校にて 県教科指導会
九月一日	神奈川県師範学校にて 国民学校合宿講習 (二五日まで一〇回)

昭和一七年「支出命令簿」

一九四二年の村葬

七月二九日	御所見村
七月三一日	渋谷村
九月五日	座間町
九月七日	海老名町
九月九日	有馬村
一月三一日	綾瀬村
二月一八日	座間町
二月二三日	大和村
二月二三日	渋谷村

昭和一七年「支出命令簿」

がかかるようになりました。

一九四二(昭和一七)年、綾瀬村国民学校は、神奈川県より修身と理科の研究指定を受けました。大矢喜三郎校長は、特別な予算を組んで研究を進め、研究会や講習会があれば自ら出かけ、職員にも行かせるようになりました。

国や県は、児童を労働力としても期待しました。ドングリや桑の皮を集めたり、木炭の運搬を手伝わせたりさせるようにとの県の通達がありました。綾瀬村国民学校では、たくさんさんのドングリを集め、村を通じて県に納めました。当時、ドングリは貴重な食料になりました。ドングリは粉にされ、うどんやそばに混ぜて食べられました。

児童に貯金をさせることも国や県から指示が出されていました。綾瀬村国民学校では、貯金の大切さを度々児童に訴えて、児童や教員で貯金をすることにしました。

さらに、児童の貯金を学校がまとめ、戦時国債を購入する資金として、国に協力することになりました。後に綾瀬国民学校では、千円もの戦時国債を購入しました。

女性教員が増えた

一九四二(昭和一七)年六月五日のミッドウェー海戦で、日本海軍は、空母四隻とその搭載機二八五機、巡洋艦二隻を失い、戦死者が三〇五七名にもなりました。日本海軍はその事実を隠し、政府は、日本軍があたかも勝利したように発表しました。

制海権を失った日本軍は各地の戦いで敗れるようになりました。そのため、戦死者が再び増加し、各地で村葬が実施されました。村葬は、国民学校で行われることが多く、児童も参列しました。

宿直者が二名になる

国民学校宿直賄料

昭和一七年四月一日より四月二二

日まで二二夜分

一夜一人金六〇銭（一九夜）

警戒警報発令中一夜二人（三夜）

昭和一七年「支出命令簿」

授業は午前中

九月二日水曜日 晴れ

一、 授業三時限終了

午後ヨリ修身科

講習会（綾瀬校）

全職員出張ス

大和市教育資料第四集『学校日誌抄稿』

戦死者の分を埋め合わせるように兵士として召集される男性や工場に徴用される男性が増加しました。そのため、国民学校に、女性の教員が多く赴任してくるようになりました。一九四一（昭和一六）年度に綾瀬村国民学校に赴任した教員は八名でしたが、その内六名が女性でした。一九四二（昭和一七）年度に赴任してきた教員七名の内、五名が女性でした。一九四二年度、綾瀬村国民学校には二七名の教員がいましたが、一二名が女性でした。このころ、宿直は男性の教員だけでやっていました。空襲の影響で、宿直が二名になることもあり、一人一人の宿直の回数が増えることは、大矢喜三郎校長にとって、頭の痛いことでした。

国民学校教員報国団挺身隊

一九四二（昭和一七）年九月二日の午後、高座郡にある国民学校の教員が、綾瀬村国民学校に集まりました。修身の講習会に出席するためです。どの学校でも授業を午前中で中止し、集まってきました。講習会は、九月三〇日にも実施されました。このように全教員を対象とした講習会は久しぶりのことで、県は、修身の講習を通して、修身の教育目的をより明確に理解させようとしたのです。

一〇月二七日、綾瀬村国民学校を会場にして、修身の研究会が実施されました。高座郡だけでなく、県内各地から国民学校の先生が集まってきて、授業を参観した後、授業について熱心に討論しました。

このころ、どこの町村にも、度々、戦死の連絡が届くようになりました。敗北の報道がなくても、人々は戦況が不利になってきていることを感じるようになりました。そこで、

このとき入選した標語

- ・さあ二年目勝ち抜くぞ
- ・頑張れ！敵も必死だ
- ・すべてを戦争へ
- ・その手ゆるめば戦力にぶる
- ・今日も決戦 明日も決戦
- ・「足らぬ足らぬ」は工夫がたらぬ
- ・欲しがりません勝つまでは

師魂錬成式を伝える記事

高座報国挺身隊の師魂錬成式

きのう寒川神社で

一死以て教壇を護る職域殉公の師魂を錬成する国民学校教員報国挺身隊が編成され、一七日全国一斉に結成式を挙げた。高座郡下一八校四〇〇名の教員は午前九時、寒川神社に集合。高座郡国民学校教員報国挺身隊を編成。続いて師魂錬成祈願式を挙行。

神奈川新聞の記事

東京にある三大新聞では、大政翼賛会の後援をうけて、国民にむけて標語の募集を行いました。

一月二七日、入選作が発表されました。その最優秀作は、東京の国民学校五年の児童が応募したとされた標語でした。「欲しがりません勝つまでは」というものでした。

このころ、食料や衣服といった生活必需品は、配給制でした。ほしいと思っても手に入りませんでした。ノートや鉛筆といった学用品は、学校を通じて手に入れるしかありませんでした。わずかな数しか配給されませんので、たいていくじ引きで配られました。

特に、靴は不足していたようで、たまに手に入っても大変質が悪く、すぐに穴が開きました。

ですから、「欲しがりません勝つまでは」という標語が応募されたと聞いた主催者は、真っ先に入選作にしました。この標語は、たちまち日本中に張り出されました。

一九四三（昭和一八）年一月、ニューギニア東部の日本軍が全滅しました。一月一三日、政府は、アメリカやイギリスなどの音楽を演奏することや聴くことを禁止しました。「蛍の光」や「仰げば尊し」という曲は、原曲がイギリス民謡だということで、学校で歌われなくなりました。

一月一七日（日曜日）早朝、全国の国民学校の教員が地元の神社に集まりました。国民学校の教員が国民学校教員報国挺身隊に編成され、師魂錬成祈願式を行いました。

大矢喜三郎校長は、高座郡の国民学校の教員約四〇〇名と共に、寒川神社に集合しました。官司によって祭式がすすめられ、全員で、「一死以て教壇を護る職域殉公の師魂を錬成する」ということ、つまり「死んでも教壇を護る気概をきたえる」ということを誓いました。主催した全国連合国民学校職員会が配付した資料によると、全国で、二七万人が参加しました。

二月一日、高座郡の少年団が、綾瀬村国民学校で査閲を受けました。査閲は、少年団の訓練の成果を評価するものでした。軍人と同じように隊列行進する団員の様子をみて、県の担当が評価しました。

少年団は、国民学校の三年生以上で構成されていました。団長は国民学校長でした。小旗を掲げ、隊列行進をする綾瀬村少年団は、団長である大矢喜三郎校長の前で敬礼しました。それに答礼する大矢喜三郎校長は、目の前の児童の数年後の姿を考えて、複雑な思いにかられました。

綾瀬村国民学校には、度々、出征する兵士が挨拶に訪れるようになっていました。目の前を行進する児童が、数年後、同じように挨拶をするために自分のもとを訪れるかもしれないからです。

二月二四日の新聞に第三八回陸軍記念日に向けてのポスターと標語が紹介されました。標語は「撃ちてしまむ」というものでした。「撃ちてしまむ」という言葉は古事記に書かれた言葉で、「撃たずんばしまじ」からきていました。撃ちつくすまで戦争を続けるぞという意味でした。

この標語が出たところから、学校や社会生活が大きく変化しました。戦果について話すことがはばかれ、食料不足や物不足について不平を漏らすこともはばれるようになりました。さらに、運動用語や機械用語から英語が追放されるようになりました。

このころ、綾瀬村では、厚木基地の拡張に直面していました。前回のような説明会もなく、蓼川地区の残りのほとんどと深谷の一部が基地として買収されようとなりました。その中に、綾瀬村国民学校の綾北分教場がありました。

二月二八日、綾瀬村議会は、海軍の基地拡張計画にともなって予定地内になってしまう綾北分教場の移転を正式に決めました。

綾瀬村の人口の変化

一九四一年	六一八一人
一九四二年	八〇五〇人
一九四三年	九一五〇人
一九四四年	九五六九人
一九四五年	九七五四人

『綾瀬市教育史』年表編・資料編 1

高座郡における軍関係施設

横須賀海軍航空隊相模野分遣隊
海軍の航空機の整備兵訓練部隊
陸軍士官学校
陸軍の士官（将校）を養成する学校
臨時東京第三陸軍病院
陸軍の傷病兵を治療する病院
陸軍造兵廠相模兵器製造所
陸軍の武器を開発し製造する所
陸軍工科学校
陸軍の通信兵を養成する学校

軍都計画と綾瀬

軍都計画

一九四二（昭和一七）年、綾瀬村の人口は、八〇五〇人となりました。昭和の初めから、ずっと五〇〇〇人台でした。一九四一（昭和一六）年に初めて六〇〇〇人台となり、一九四二年には一氣に八〇〇〇人を超えました。これだけ人口が増加したのは、一九四二年三月に、厚木基地に横須賀海軍航空隊相模野分遣隊が発足し、多くの軍人がやってきたことと、基地の拡張工事が続けられ、工事関係者もたくさんやってきたからです。

一九四二（昭和一七）年九月、綾瀬村は、隣接する大和村や渋谷村とともに、都市計画法適用地域に指定され、道路や交通機関、住宅地域の整備が進められることになりました。

綾瀬村がこれだけ大きく変わったのは、国や県が、高座郡の北部から中部にかけての地域を軍事拠点として整備する計画（軍都計画）をつくったからです。

一九三六（昭和一一）年六月、座間村・新磯村・麻溝村・大野村にかけて陸軍士官学校が建設されることが発表され、翌年九月には、陸軍士官学校が移転してきました。

一九三八（昭和二三）年には、臨時第三東京陸軍病院、陸軍造兵廠相模兵器製造所、陸軍工科学校などの軍関係の施設が次々と建設されました。

一九三九（昭和一四）年、神奈川県は、国とともに、軍都建設事業にふみきました。道路や住宅地域の整備だけでなく、軍関連施設のある地域の町村の合併をすすめました。

一九四一年（昭和一六年）四月、座間・新磯・麻溝・大野が合併して、相模原町が発足しました。この年の六月、綾瀬・大和・渋谷の三ヶ村にまたがる地域に海軍施設の建設さ

綾北分教場の移転工事費

総額 二〇、三三一円三九銭

内訳

土地代	三、八八二円八五銭
工事費	一六、〇四八円 四銭
お礼	一五九円五〇銭
落成式	二四一円

昭和一八年「支出命令簿」

綾北分教場の位置

(旧と新の位置)



れることが発表されました(海軍軍都計画)。この海軍施設は、当初、航空機の整備兵を訓練するための基地でした。太平洋戦争の開戦により、首都防衛のための基地となり、厚木基地と言われるようになりました。

綾北分教場の移転

一九四三(昭和一八)年二月二十八日、綾北分教場を移転させることを決定した綾瀬村議会は、次のようなことを確認しました。

「移転工事が終了するまで、分教場の児童は、子の社の社務所や寺尾倶楽部の一室を借りて勉強することにする」ということです。

校舎の建築方法は、資材が極端に不足して、修繕用の釘やトタンでさえなかなか手に入らない時でしたので、現行の建物をいったん解体して、使える資材をできるだけ使うことにしました。

四月一五日、綾瀬村は、県に綾北分教場の計画を提出しました。それによると、新たな校地は、現在の綾北小学校がある土地とされました。

建設用の資材がなかなか手に入らないので、鈴木寛村長や大矢喜三郎校長は、様々な人に働きかけました。

五月二十九日、村長と校長は、厚木海軍航空隊の開隊式に出席しました。厚木基地に戦闘部隊としての海軍航空隊が常駐することになったからです。

村長は、海軍の関係者に祝辞を述べると共に、分教場建設資材の調達への協力をお願いしました。課題であった窓ガラスの調達の目途も立ち、分教場の建設工事は急速に進められました。七月にほぼ完成したので、仮分教場から移ってくることにしました。

落成式のための買い物からわかること

- ① 弁当と菓子配られた。
弁当代、菓子代
- ② 酒が出された。
清酒5升代
- ③ 食事が出された。
白米7升代、牛肉、ジャガイモ、
ごぼう、玉ねぎ、砂糖、醤油、
小麦粉
(おにぎり、すいとん入りけんちん汁)

昭和一八年「支出命令簿」

水泳授業が始まったことを示す資料

昭和一八年七月一二日一四日に至る
児童水泳費 一〇円三〇銭
内訳左記の通り
金七円〇〇銭也 児童水泳更衣所謝礼
金三円三〇銭也 実地踏査費

昭和一八年「支出命令簿」

七月一三日、分教場の児童は、先生方とともに、それまで使っていた机やいすを運び入れ、新たな場所に移転しました。

綾北分教場の工事は、窓ガラスの一部がなかなか届かなかったので、夏休みになっても進められ、ようやく八月末に完成しました。

九月二日、完成した綾北分教場で落成式が行われました。校長や村長と、学務委員・工事関係者が集まり、お茶とお菓子が配られ、ささやかに行いました。

動員される児童

一九四三（昭和一八）年、国や県は、不足していた船のりや水兵を希望する児童を増やそうと、国民学校の児童に水泳の授業を実施するよう指示し、各地で教師向けの水泳講習を行いました。

七月一二日、綾瀬村国民学校の初等科四年以上の児童が、先生方に引率され、相模川に向かいました。水泳の授業のためです。当時、相模湖ダムが完成しておらず、相模川の水量が多く流れも速かったため、児童だけでなく、先生方も大変緊張しました。綾瀬村国民学校の水泳授業は、一四日まで続きました。

九月になって、食料増産に協力させるため、国民学校の児童が草刈りをする事になりました。このころ化学肥料が大変不足していたので、刈った草で堆肥をつくって補おうとしました。

九月一〇日（金）早朝、綾瀬村国民学校の児童は、集落ごとに集まり草刈りをしました。草刈りを終え、登校した児童にパンが配られました。草刈りは、九月二五日（土）の午後

綾瀬国民学校児童の奉仕作業

① 暗渠排水作業

吉岡や上土棚といった水はけの悪い田が多い地域で、田に溝をほり、竹や粗朶をいれて、余分な水を出す作業です。

② 桑條剥ぎ作業

児童全員で行った作業です。桑の木の皮に含まれる繊維を取り出す作業。二回行った。

③ 農園作業

綾瀬村国民学校の農園で、米や小麦、馬鈴薯や甘藷などを栽培し、出荷しました。

④ 軍用地内の農作業

厚木海軍航空隊の用地の未使用地で、米や小麦、馬鈴薯などが生産されており、その一部を綾瀬村国民学校の児童が担っていました。

⑤ 堆肥用草刈

初等科四年以上の児童が集落ごとに行いました。八月から九月にかけて六回も行いました。

⑥ 奉仕作業

小麦刈奉仕作業や田植え・脱穀・麦踏みなど、人手不足の集落に応援に出かけました。

⑦ 非農家児童による奉仕作業

農繁休業の時に、非農家児童が特定の集落で奉仕作業を行いました。

昭和一九年「当直日誌」

にも行われ、この二日間で、延べ一〇〇〇人以上の児童が参加しました。

一〇月になって、政府は「教育に関する戦時非常措置方策」を決定し、学生・生徒の動員を強化することにしました。

一九四四（昭和一九）年三月七日、政府は、「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒動員実地要綱」を発表しました。この要綱によると、国民学校高等科の児童は随時動員されることになりました。

一九四四（昭和一九）年度、綾瀬村国民学校の児童は、のべ七七日も勤労に動員されました。最初は、高等科の児童が動員されることが多かったのですが、六月になると、初等科五年以上の児童も動員されました。さらに、七月末には、初等科四年も動員されるようになりました。さらに、一回だけですが、初等科の一～三年の児童がイナゴ取りに動員されたこともありました。

主な動員内容として、暗渠排水作業、桑條剥ぎ作業、農園作業、軍用地内の農作業、草刈り、奉仕作業などがありました。

この年、夏休みが短縮され、八月一日～八月一六日までとなりました。また、農繁休業も六月末と十一月の二回行われ、児童は食料増産にはげみました。

綾瀬村国民学校の児童は、勤労以外にも動員されました。戦死者ができれば、国民学校で村葬が行われました。当然児童も参加することになりました。また、出征者があれば、児童も駅まで見送りに行くことができました。

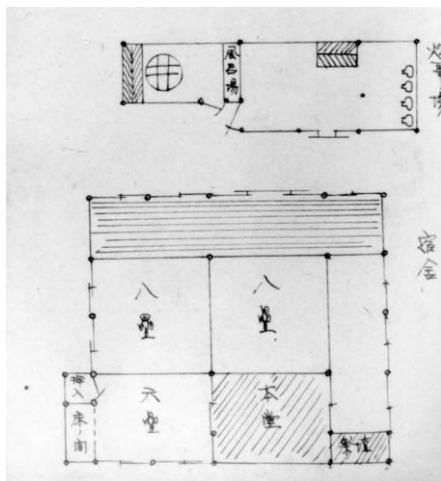
一九四四年には、陸軍によるインパール作戦、海軍によるレイテ沖海戦といった大規模な戦闘が展開されました。二つの戦闘とも、日本の敗北に終わり、多くの戦死者をだしました。そのため、綾瀬村の戦死者数も急増しました。一九四四年の戦死者数は、「当直日誌」で確認できただけでも一九名にも及びました。その中には、綾瀬村国民学校の教員である

疎開児童の宿舎となった場所

早川	長泉寺
	龍洞院
吉岡	青年クラブ
	済運寺
	正福寺
	青年クラブ
上土棚	蓮光寺

『綾瀬市史』 4 資料編・現代

宿舎となった龍洞院の様子



綾瀬市教育研究所所蔵資料

小島勇も含まれていました。出征者の数も急増しました。この年の綾瀬村の出征者の数は、「当直日誌」で確認できただけでも三六名にもなりました。この中には、綾瀬村国民学校の教員である山崎寛や鈴木徳治郎も含まれていました。

綾瀬村では、出征者があるたびに、国民学校の校長や教員の代表が駅まで見送りに行くことになっていました。そのため、授業も自習になることがありました。

一九四四年の唯一明るい話題は、兵役を終えて二名が帰還したことでした。その内の一名が、綾瀬村国民学校の教員である比留川本吉でした。

学童疎開

一九四四（昭和一九）年七月一二日、大矢喜三郎校長は、学童集団疎開に関する会議に出席するため、県庁に向かいました。このころ戦争が激しくなり、都会に住む子どもに危険がせまっていました。そこで国や県は、学童集団疎開を積極的に進めようとする方針を決めました。神奈川県では、横浜・川崎・横須賀の国民学校の三年生から六年生の児童が対象となりました。

綾瀬村には、横須賀市の諏訪国民学校の児童が疎開してくることが決まりました。八月二日、綾瀬村役場に横須賀市と綾瀬村の関係者が集まり、集団疎開の手順について確認しました。

夏休み中の八月一三日、横須賀市の諏訪国民学校の児童二二名が集団疎開のために綾瀬村にやってきました。綾瀬村国民学校の職員と初等科六年の児童は、相模国分駅と長後駅に迎えに行きました。疎開児童は、村内の寺院や青年団の施設に入り、宿舎としました。

激しい空襲の始まり

十二月六日 水曜日 曇

一、警戒警報発令 ○時十四分

〃 解除 一時三十分

(B 29 一機 ○時三十一分帝都上空ニ表ハレ東進セリ)

一、后八時一〇分 左記電話アリ

(海老名校ヨリ)

「七・八・九日三日間空襲恐れアルニ付キ登校停止ノコト」

一、七日午前警報発令(備考)

警報発令時

警発 一、三六

空発 一、四五

空解 三、一〇

警解 四、〇七

十二月七日 木曜日 曇

一、空襲ノ恐れアルタメ児童登校停止

一、警報発令 第一回 第二回

警戒警報発令 五、四五 二、〇七

空襲〃〃 六、一〇 二、二〇

〃 解除 六、五七 三、一六

警戒〃〃 七、一六 三、四六

昭和一九年「当直日誌」

再び綾瀬小学校へ

激しい空襲の下で

一九四四(昭和一九)年一〇月二〇日、綾瀬村国民学校は、体錬会(運動会)を行いました。集団疎開の児童も加わり盛大に行われました。大矢喜三郎校長は、久しぶりに児童の元気な声を聞くことができましたが、いつもの体錬会と違い、周辺の国民学校の児童は来ていませんでした。空襲の危険があるため、これまでと違って他校の体錬会に参加することが禁止されていたからです。

一〇月二三日には、綾瀬村で村葬が行われました。この頃、日本軍は、グアム島やサイパン島を失い、これらの島からの空襲の危険にさらされていました。二四日、日本軍は、フィリピンのレイテ島沖で、アメリカ軍と壮絶な海戦を行い、空母や戦艦、航空機や多くの将兵を失いました。日本近海の軍事拠点を失ったため、空襲の危険は益々増しました。一二月七日、ついに綾瀬村に空襲がありました。厚木基地に爆弾が落とされ、大きな穴があきました。綾瀬村国民学校では、この日から三日間、児童の登校を停止し、先生方は、空襲から校舎や奉安殿を守るため、学校に集まりました。

一九四五(昭和二〇)年になると、日本各地への空襲がひどく多くなりました。度重なる空襲が綾瀬村やその周辺を襲うようになりました。そのような状況下でありながら綾瀬村国民学校の児童は、空襲を警戒しながら山林に入り、松の根を掘り返しました。松の根から松根油をとり、航空機の燃料にするためです。三月の東京大空襲や五月の横浜大空襲では、夜空が赤く燃えたように見えました。



綾瀬市教育研究所所蔵資料

三月二二日、綾瀬村警防団は、国民学校の校庭に、児童や近隣の人がすぐ避難できるように防空壕を一三カ所も作りました。

多くの犠牲の末、戦争が終わる

四月一日、沖縄本島にアメリカ軍が上陸し、激しい戦闘が開始されました。この日、綾瀬村は綾瀬町となるお祝いの式をし、綾瀬村国民学校は綾瀬町国民学校となりました。そのお祝いは、厚木航空隊の司令や県知事の代理を招いて、国民学校の講堂で行われました。その席で、鈴木寛村長は、この戦争を戦い抜くために一致団結しようといよびかけました。

四月一九日、神奈川県は、国民学校初等科を除き、全ての学校の授業を一年間停止せるという国の決定を通過してきました。綾瀬町国民学校では、農作業の手伝いなどに出る高等科の児童と学校に残っている初等科の児童とに完全に分かれるようになりました。

五月になると、本土決戦に備え、神奈川県各地に陸軍部隊が配置されました。綾瀬町国民学校の校舎の多くが、そうした部隊の宿泊所として接收されました。大矢喜三郎校長は、わずかに残った教室を使って二部授業を行いました。その授業も度重なる空襲のためにしばしば停止されました。

七月一〇日、綾瀬町は、激しい空襲を受けました。綾瀬町国民学校の講堂や校舎は艦載機の機銃掃射で穴があきました。

八月六日、広島に原子爆弾が投下され、多くの死傷者が出ました。この新型爆弾のことは、綾瀬の人々にも伝わりましたが、話題にすることはできませんでした。八月七日、綾瀬町国民学校の校舎を接收していた陸軍の部隊が引き揚げました。大矢喜三郎校長が、近隣の国民学校に問い合わせると、近隣でも同じことが起きていました。八月九日、長崎に

憲兵と警察官の宿泊

憲兵は九月二日ころまで、警察官は九月末まで、綾瀬町及び周辺の町村の国民学校に宿泊した。

綾瀬小学校「沿革誌」

原子爆弾が落とされ、そのことも綾瀬に伝わってきました。この年、神奈川県は、夏休みを停止して、授業を続けることを通達してきました。綾瀬町国民学校の児童は、空襲の危険にさらされながら、勤労奉仕や授業を続けていました。

八月一五日、綾瀬町国民学校に教職員と児童が集められました。ラジオの放送で、人々は、日本が戦争に負けたことを知りました。

連合国の占領

戦争に負けたことにより、日本は連合国の占領を受けることになりました。それを受け入れない軍人が厚木基地にいて、綾瀬町にそれに呼応しようとする人々もいました。

八月一六日、そうした動きをみた大矢喜三郎校長は、教職員と児童を国民学校に集め、「動揺しないで、平和な日本をつくろう」と呼びかけました。

厚木基地で徹底抗戦をさげぶ軍人の動きは八月二三日まで続きました。八月二四日、大矢喜三郎校長は、再び教職員と児童を集め、県の通達をもとに、連合国軍がやってきた時の行動を、具体的に指示しました。

八月二八日、綾瀬町国民学校に警視庁の警備本部と憲兵隊、県警警備隊が置かれました。この日と翌日、綾瀬町国民学校では、児童の登校を見合わせました。八月二九日、連合国軍の先遣隊の一部が厚木基地に到着し、翌三〇日、連合国軍最高司令部の司令として、マッカーサー元帥が到着しました。九月二日には、厚木基地は接收され、本格的な占領が始まりました。

九月一五日、文部省は、『新日本建設の教育方針』を発表しました。それによると「今後

G H Qの教育に関する四大指令

- ①軍国主義教育及び超国家主義教育の禁止、自由主義の普及
- ②軍国主義的な教育関係者の調査と追放
- ③国が神道を保護したり、神道を教育に取り入れることを禁止
- ④修身・国史・地理の授業の停止

『神奈川県史』通史編5 近代・現代

の教育は益々国体の護持に努めると共に、軍国的思想及施策を払拭し、平和国家の建設を目的として」とあり、国のしくみは変えないが、軍国主義的な考えをやめて、平和な国をつくろうと呼びかけました。この日、綾瀬町国民学校は、高等科の女子を除いて、授業を再開しました。授業は再開されましたが、先生方は、何を教えていいか困りましたし、児童も休みがちでした。

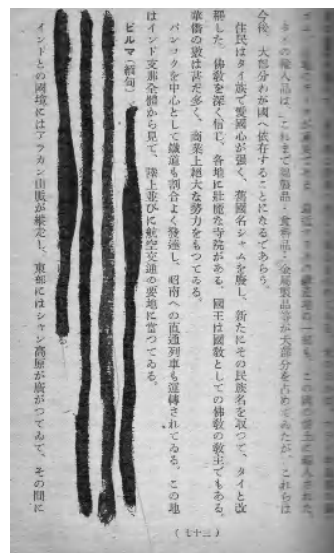
一〇月二二日、連合国軍最高司令部（以下、G H Qとする）が日本の教育制度に対する管理政策を発表しました。軍国主義的及び極端な国家主義的イデオロギーの普及を禁止し、議会政治、国際平和、個人の権威の思想、基本的人権についての考えを広めるよう命じました。神奈川県では、一〇月二九日に海老名町国民学校で、そして、十一月二六日には神奈川県師範学校というように、次々と新教育講習会が開催され、新しい考え方が広められました。

新しい動き

一九四五（昭和二〇）年十二月、全国の教員の有志が、食料持参で東京に集まって来ました。新しい教育を自分たちで作り上げるために教職員組合をつくろうとした人々でした。こうした動きは全国に広まり、一九四六（昭和二一）年二月二三日、高座郡教職員組合が結成されました。教職員組合を結成した教員たちは、教育研究部をつくり活発に研究を始めました。

この頃、綾瀬町国民学校は、大変困難な状況でした。教員と教室が不足していました。本校や分校では、一教室に七〇人近い児童が学んでいる学級がありました。そのため、

墨ぬり教科書（一九四六年）



綾瀬市教育研究所所蔵資料

新教育研究会の日時と会場学校名

一九四六年	
九月二五日	渋谷町国民学校
一〇月一五日	海老名町国民学校
十一月一二日	有馬村国民学校
十一月二二日	茅ヶ崎市第二国民学校
十一月二五日	大野第二国民学校
一九四七年	
一月一八日	座間国民学校
一月二四日	綾瀬町国民学校
二月五日	藤沢市第一国民学校

大和市教育資料第四集『学校日誌抄稿』

理科室や工作室などの教室も普通教室として使って授業をしていました。

一九四六（昭和二一）年一月二〇日、神奈川県は、これまでの教科書のうち、軍国主義的内容のある部分に墨を塗るか切り取るかして使用するように指示しました（墨塗り教科書）。教科書によつては、教える内容が三分の一になった教科書もありました。

一九四六年度が始まって、新しい教科書は発行されませんでした。そのうえ、五月になると、教科書は、GHQの許可をうけて発行されたものしか使用できなくなりました。教員たちは手探りで教育を続けざるを得ませんでした。

日本の教育制度の再検討は、GHQの指導のもとに行われていました。三月五日に、アメリカ教育使節団が来日しました。使節団は、精力的に教育関係者と接触し、四月七日、日本政府に報告書を提出して帰国しました。

五月一五日、文部省は、アメリカ教育使節団の報告書をもとに、新しい教育方針を発表しました。この方針をもとに各地で研修会や研究会が開かれるようになったのは、六月でした。

六月二五日、大矢喜三郎校長は、藤沢にある地方事務所で開催された新教育研究会に参加しました。七月九日には、座間国民学校で新教育に関する座談会が開かれ、多くの人が集まりました。この年は、食料確保のため夏休みが繰り上げられ、七月一四日から夏休みになりました。七月二〇日には、高座郡にある国民学校の教員が渋谷町国民学校に集められ、研修会が開かれました。

この頃、ようやく仮綴じの薄い教科書が少しずつ発行されるようになりました。

九月以降、高座郡内の国民学校では、新教育に関する研究会が次々と開催されました。

一九四七（昭和二二）年二月二七日には、綾瀬町国民学校・御所見村国民学校・渋谷町国民学校の三校が同時に研究発表会を開催しました。

新しい歴史の教科書（くにのあゆみ）



綾瀬市教育研究所所蔵資料

学習指導要領一般編の序文

新しく児童の要求と社会の要求とに
応じて生まれた教育課程をどんなふう
に生かしていくかを教師自身が自分
で研究して行く手引きとして書かれ
たのである。

再び綾瀬小学校へ

国民学校の教員たちが、精力的に研究を続けるようになったところ、教育条件も次々と整備されるようになりました。一九四六年十一月三日、日本国憲法が公布されました。教育を受ける権利と国の条件整備の義務が明確にされました。最後の帝国議会では、教育基本法や学校教育法が審議されていました。一九四七（昭和二二）年になると、その内容が新聞やラジオによって国民に伝えられました。

二月五日、文部省は、新しい学校制度を、小・中学校の場合、四月から始めることを発表しました。

綾瀬町では、二月二四日、学務委員が集まって、新しい学校制度について審議しました。学務委員の一人でもある大矢喜三郎校長は、研修会や研究会で学んできたことを他の学務委員に伝えました。

新しい教育制度では、小学校が六年間、中学校が三年間となり、九年間の義務教育となることを伝えました。中学校の敷地や校舎は、町村が用意しなければなりませんでした。

三月二〇日、学習指導要領・一般編が発表されました。学習指導要領によると、教育内容や方法は、大幅に教員に任されるようになりました。学習指導要領は、教員が教育課程を考える指針にすぎないということが度々繰り返されて述べられていました。

三月三十一日、教育基本法と学校教育法が公布されました。このころ、綾瀬町では、ようやく中学校の敷地と校舎のめどが立ちました。

四月一日、綾瀬町国民学校は、綾瀬町立綾瀬小学校となりました。大矢喜三郎校長は、復活した綾瀬小学校の校長として、仕事を始めました。